

人材養成像

グローバルヘルス領域におけるTMGHとLSHTMの共同研究・プロジェクトの推進及び両大学の更なる連携強化を推進する人材の養成を目的としている。国際連携専攻における修士は、将来的に日英が共同で推進する第3国での研究プロジェクトや実践プロジェクトのリーダーとして推進する能力に加え、日英のみならず、日本と欧米先進国や国際機関との連携強化を通じてグローバルヘルスを推進することができる能力を持った者となる。具体的には、TMGH及びLSHTMの教員・研究者や国際機関、国内機関(JICA等)、国際NPOが実施する国際プロジェクトのリーダーを想定している。

Doctor of Philosophy : 博士(グローバルヘルス) 授与

3年次後期: 博士論文審査・最終試験

国際水準のグローバルヘルス研究を遂行し、Doctor of Philosophyの学位に相応しい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた学位論文(ティース形式)を作成し、JAC学務委員会による学位審査を受ける。

2年次～3年次前期: TMGHとLSHTMが共同で実施する国際共同研究やプロジェクトに参加



教育研究の進捗管理を実施

1年次後期: 博士研究格審査(Qualifying Examination)

JAC学務委員会による、研究計画書の審査を実施する。本審査に合格した者のみ、TMGHとLSHTMが共同で実施する国際共同研究やプロジェクトへの参加が認められる。本審査に不合格となった者は以下を選択する。

- ① TMGH博士後期課程グローバルヘルス専攻への転専攻
- ② LSHTMにおいてMaster of Philosophyを取得
- ③ 自主退学

1年次前期: 研究指導チーム決定

JAC学務委員会による、学生のバックグラウンドにベストマッチングする主指導教員(1名)及び副指導教員(2名)から構成される研究指導チームの決定。主指導教員がLSHTMの教員の場合、副指導教員のうち1名はTMGHの教員が担当する。

主な入口: TMGH修士課程(博士前期課程)又はLSHTMを優秀な成績で修了した者

TMGHとLSHTMが共同で実施する国際共同研究やプロジェクトとのマッチング、又は出願時の研究計画等による審査(書類選考、外国語検定試験、面接)を実施する。(外国語検定試験については、LSHTM博士レベル相当を求める)

【Joint Academic Committee (JAC学務委員会)の運用】
TMGHとLSHTMを中心に構成されるJAC学務委員会を組織する。本組織は、学生毎の研究プロジェクト選定～修士論文審査～博士論文審査まで、入学から学位取得までの全プロセスを管理し、教育・研究・学位の質を担保する機能を果たす。

ディプロマポリシー

- ① グローバルヘルス全体を俯瞰する能力と知識を有する
- ② 日英が推進する国際共同研究や国際共同プログラムへの参加経験を介して、国際共同研究等において主導して研究・活動する能力を有する
- ③ 成果を公表して、グローバルヘルス領域の科学研究を推進する能力を有する
- ④ 科学的知見に基づき、実践においてもインパクトを与えられる能力を有する

すなわち、グローバルヘルス分野において、研究者として自立して研究活動を行い、高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を備えた人材であり、国際的環境のなかで、グローバルヘルス分野における国際共同研究・実践プロジェクト(特にTMGHとLSHTMが共同で実施する研究等)を推進できる能力を有した者である。

カリキュラムポリシー

- ① 研究領域の選択に関するカリキュラム
 - ・体系的文献検索を通じて先行研究の十分な精査
 - ・文献の批判的読解を通じて信頼できる情報の選択力
 - ・学際的な研究指導チーム内での実質的な議論を通じて発表能力
- ② 研究計画作成に関するカリキュラム(博士研究資格審査準備)
 - ・意義のある革新的な研究課題を吟味・決定
 - ・研究計画書・プロトコルの作成(演習)
- ③ 研究技術修得に関するカリキュラム
 - ・個々の研究計画・プロトコルに沿って、実験手技演習、疫学調査手技演習、その他必要な基礎知識・技術取得を行う(必要に応じて追加的に修士授業の聴講等による知識獲得も課す)
- ④ 博士研究チューリッジョン
 - ・博士研究の進捗に合わせた討論・方法と結果のチェック
 - ・ティース形式論文の作成指導(博士論文審査・最終試験)

アドミッションポリシー

- ① グローバルヘルス領域において、博士レベルの研究・実践能力を修得するために必要な基礎および専門知識・技術を有する(知識レベル)
- ② 同領域の進展に貢献しようとする向学心を有する(ミッション・精神レベル)
- ③ 博士号取得後に様々な分野と協働して国際チームの一員としてリーダーシップ・フォロワーシップをもって活躍できる能力、柔軟性を備えていること(社会性・国際性・能力レベル)